

# 海洋水産学科

## 1. 教育研究上の目的

本学科は、豊かな生態系と高い生産性に恵まれたオホーツク海を主たる場として、資源の生物学的知見と、それを育む水圏の環境及び生態系にかかわる知見とを統合的に理解させることを教育研究の目標とし、水圏環境の保全、水産資源の増養殖、解析、管理、未利用資源の開発、漁獲物の利用加工や流通等に資する人材を養成する。

## 2. 教育目標

海洋水産学科は、その教育研究上の目的を踏まえ、次のような者の養成を教育目標とする。

- (1) 水産学を基盤として、水圏の生物学と食料生産に関する専門知識と技術を幅広く有する者
- (2) 水圏の生物学と食料生産の専門家としての責任を自覚し、水産業にかかわる問題解決能力と意欲を有する者
- (3) 適切なコミュニケーションおよびプレゼンテーション能力を有し、水産業を通じて社会貢献ができる者

## 3. ディプロマ・ポリシー

海洋水産学科は、生物資源・自然資源が豊かなオホーツク海を主たる学びのフィールドとして、幅広く一般教養と専門知識を身につけ、水産業にかかわる様々な問題の解決に俯瞰的視野を持って貢献できる人材を輩出します。そのため、実学を重視した体系的な授業科目を履修・修得し、卒業論文を提出することを学位授与の要件とするとともに、以下の能力を備えた学生に学位を授与します。

- (1) 自然環境と調和した持続可能な漁業生産技術とともに、安心安全な水産物を安定的に提供していくための水産増養殖技術を理解するために、必要な水産学・海洋学に関する専門知識および技術を身につけている。
- (2) 卒業論文の作成を通して、基礎的な知識や技術をもとに研究テーマを探索し、必要な情報を入手し、得られた成果をまとめる文章表現力とプレゼンテーション力を持ち、さらにその過程で生じるさまざまな問題の解決策を見出す能力を身につけている。
- (3) 研究室および地域での体験や実践的な活動を通して、広い視野と他者への理解、コミュニケーション力、自らの考えを表現し得る能力を持ち、自律的・継続的に行動できる能力を身につけている。
- (4) 多様な水産科学に関する専門性を活かし、学修の成果を広く実社会で活かすことのできる能力を有している。

#### 4. カリキュラム・ポリシー

海洋水産学科は、生物産業（生産-加工-経営）を一貫して学ぶための学部共通科目とともに、実学を重視した専門教育科目の体系的な履修を通して、ディプロマ・ポリシーに掲げた能力を身につけるため、以下の方針の下に教育課程を編成します。

- (1) 大学における学修方法、専門教育の動機づけおよび学修内容を将来の進路につなげるための「総合教育科目」と国際的視野を形成するための「外国語科目」を配当する。
- (2) 水産生物の生物学および生態学的特徴と水圏環境について、研究室配属前の学生が、総合的で幅広い知識や水産生物の増養殖に係る基礎的知識と技術を修得するために身につけるべき講義科目と実学を学ぶための実験・実習科目を配当する。
- (3) 水産生物の生物学および生態学的特徴、水圏環境、増養殖技術について、研究室配属後の学生が、高度で専門的な知識や技術を修得するために身につけるべき講義科目と専門的な研究を実施するための実験・実習科目を配当する。さらに4年間の学修の集大成となる「卒業論文」を配当する。
- (4) 学習の成果を社会生活や職業生活の場で活かせるように、自分の考えを伝えるプレゼンテーション能力やコミュニケーション能力を身につけるための科目を配当する。

#### 5. アドミッション・ポリシー

海洋水産学科は、生物産業（生産-加工-経営）と自然環境の共生という学部共通の学びを基盤とし、水圏の生物や生態系そして環境はもちろん、これらの保全や増養殖にも興味を持ち、オホーツク海から地球全体の生物、生態系や環境に関する問題の解決に積極的に取り組むことのできる意欲を持った人材を養成します。そのため、本学科では、次のような学生を求めています。

- (1) 水圏における生物や生態系、これを取りまく環境に関する様々な問題に強く興味を持ち、自らの力で積極的に解決の糸口を探ることができる。
- (2) 得られた知識をもとに、様々な自然現象について創造的に深く考えて、自らの考えを的確にまとめることができる。
- (3) 与えられた様々な課題について自ら考えたことを、自らの言葉を用いて、多くの人々に平易に説明することができる。
- (4) 「生物」、「化学」、「数学」など自然科学に関する科目はもちろん、「国語」や「英語」についても基礎的学力を身につけ、それを応用することができる。